

比喩表現を学ぶ レトリック

文章表現にはいろんな「色」がある。単純に「雨が降る」だけでは、事実しか伝わらないが、表現者はそれだけでは満足しない。雨が降ったことを自分がどのように見ているかを現すために、「心寒い雨が降っている」と表現する。また、どんな雨が降っているのかを伝えるために、「暴風雨がガラスを壊しそうだ。」などと表現する。このように、表現する時にいろんな「レトリック（修辞法）」を使う。

今回はレトリックの中で、よく使われていると言ってもいい「比喩表現」を学ぼう。

Ⅱ-Ⅰ 種類

比喩表現には次のような種類がある。ほぼ(ア)～(ハ)の8種類に分かれる。

- (ア) 直喩 (ちよくゆ) ・ 明喩 (めいゆ)
- (イ) 暗喩 (あんゆ) ・ 隠喩 (いんゆ) ・ メタファー
- (ウ) 擬人法 ・ 活喩 (かつゆ)
- (エ) 声喩 (せいゆ) ・ 擬態法 (ぎたいほう)
- (オ) 換喩 (かんゆ) ・ 提喩 (ていゆ) ・ メニトミー
- (カ) 諷喩 (ふうゆ) ・ 寓喩 (ぐうゆ) ・ アレゴリー
- (キ) 共感覚的比喩 (ききょうかくてきひゆ)
- (ク) 引喩 (いんゆ) (一) の「隠喩」とは違(ちが)う

Ⅱ-Ⅱ 説明

(ア) 直喩 「～のように」「～みたいに」といった言葉でつないで、たとえているもの。

【例】雪のような肌 光陰矢のごとし

(イ) 暗喩 「～のように」「～みたいに」を使わずに直接それだといったたとえる方法

【例】立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花
あなたの前途には暗雲がたれ込めている

(ウ) 擬人法 人でないものの様子を人の言動のように描く用法。

【例】「空が泣きそうだ」
「《人でないもの》が《人がすること・人の状態》する(になる・だ)」

(エ) 擬態法 状態や様子をそれにふさわしい音で表す。

【例】「ぴかぴか」「きらきら」

(オ) 換喩 そのものやその状態を表すのに、最もよく出ている特徴で代弁する方法。

【例】千円札を「漱石さん」と言ったりする。
夏目漱石「坊っちゃん」に登場する「赤シャツ」

(カ) 諷喩 書き手がほんとうに伝えたいこと(ア)は表現せずに たとえたもの(ク)だけを表現することによって、裏にある真意を感じ取らせる方法。

【例】ブタに真珠 飛んで火に入る夏の虫

(キ) 共感覚的比喩 ある感覚を表す語で別の感覚を表すこと。

【例】暖かい色(触觉の表現が視覚に用いられた例)

(ク) 引喩 有名な詩歌・文章・ことわざ・故事などを自分の文章の一節に引用して文飾としたり、表現内容に含みを持たせたりする修辞法。

